



宗門関係学校の学生・生徒による献花後の法要の様子

阪神・淡路大震災物故者追悼法要 「1・17『いのち』を考える研修会」 ～あれから25年の月日が経ち～



第54号

発行所

浄土真宗本願寺派 本願寺神戸別院
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号

Tel: 078-341-5949

追悼法要

この法要・研修会は、震災によって甚大な被害を受けた地域に存在する別院であるからこそ「震災の記憶・教訓を後の世代・時代に残し伝えていくために」との願いを込めて震災の翌年から行われている。この度は、約百五十名を超える参拝者があつた。先ず、十三時三十分より行事鐘が響く中、兵庫教区内寺院から出仕された奏楽員による雅楽の音色と共に法要が始まった。また、お勤め前には、

兵庫県内の宗門関係学校の学生・生徒五名による献花がご本尊正面に供えられ、杉本正信輪番導師のもと、

参拝者全員で正信念仏偈作法（第二種）をお勤めし震災で犠牲となつた六千四百三十四人を追悼した。

『いのち』の作文

兵庫県内にある宗門関係学校の五人の学生・生徒が「命をつなぐ」をテーマにした作文が朗読された。五人全員が、震災後に生まれた年代であるため震災を実際に体験していないが、震災を体験した両親や被災された方々からの当時の話を聞いての作文となっ

研修会

また、研修会は、ノンフィクション作家で高野山真言宗僧侶でもある家田莊子さんを講師に迎え、「この世に生まれて、生きて、生かされて…」と題しての講演となつた。家田さんは、海外での自ら取り組んできた活動を通して命の大切さや生かされていることの実感について話された。参加者は、改めて「いのち」の大切さを考えさせられた法要・研修会になつたようだ。

ていた。「多くの人の支援があつたからこそ今の私たちがいる」、「人間はやはり支え合わないと生きていけないと『いのち』を考える研修会」が行われた。

『命を守るために』
串田 桃葉（神戸国際中学校）

『私は皆に生かされている』
濱本 紗貴子（兵庫大学）

『私にとつての阪神淡路大震災』
小林 紗和（兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校）



本堂の親鸞聖人の厨子の下
(赤で加圧した部分) に納骨します

「納骨永代經」の納骨は、お
墓のように区画を借りると

納骨について

まだ、これは、故人から自分
とのご縁を結んでほしいとの
たまきかけとも捉えられるの
ではないでしょうか。

以上のことから、当院では、
永代納骨を希望されます場合
は、必ず永代經もつけていただ
くこととなります。

昨今、「終活」と呼ばれる言葉がよく聞かれ神戸別院にもご相談が多く寄せられています。その中でも、最も多いのがお墓についての相談となっています。そこで、以前からご案内しておりました「納骨永代經」について皆様のニーズにお応えして「通りの様式を整えましたのでご紹介いたします。

そもそも「納骨永代經」とは

（数年間）に亘ってお経さまを勤めてもらう」という形態で行つております。浄土真宗では、阿弥陀さまの「あなたを救います」という願いから「阿弥陀さまのはたらき」によつてお淨土に生まれ仏となる教えです。ですから、私たちが、「亡くなられた方を成仏させるために供養する」という考えではありません。

当院では、教えが「末代まで伝わるよう」、「お寺でお念佛のみ教えが続くよう」との思いを表す形として故人の忌日に「お経様をいただく」として捉えております。

また、これは、故人から自分だけではなく、多くの方に仏法とのご縁を結んでほしいとのたまきかけとも捉えられるのではないか。

以上のことから、当院では、永代納骨を希望されます場合は、必ず永代經もつけていただくこととなります。

「納骨永代經」の納骨は、お墓のように区画を借りると

永代經について

月忌・祥月等のお勤めは、安代壇前にて午後一時三十分（法要等の都により若干の時間変更があります）からお勤めいたしております。

下記の表の通りとなつております。永代經の第六種以上の方は、最初のお勤めとしての開闢法要を本

うになつております。基本的には、合葬壇型と安代壇型のいずれもお骨自体は三階本堂の親鸞聖人の近くにて他の方と一緒に同じ骨壺に納骨をいたします。さらに、「故人と認識できるよう少しのお骨を個別に納めたい」と望まれる方のためにこの度「安代壇」を整えさせていただきました。小さな骨壺（直徑約四センチ、高さ約六センチ）にお骨の一部を入れて本館五階にあります安代壇に個別に納骨をいたします。

なお、納骨に際しては、合葬壇型は五万円、安代壇型は一体につき三十万円のご懇意のご進納をお願いしております。

い形ではなく永代に亘ってお寺に納骨をする形となつておきますとお返しいただけますと一度納めていただけます。

合葬壇・安代壇を整えました

モダン寺の納骨永代經（8万円から）

【永代經のご案内】※納骨永代經には、上記の納骨懇意+下記の永代經懇意が必要となります

個別読經型		総読經型	
かいびやく 開闢法要あり		かいびやく 開闢法要なし	
第1種	毎月命日50年間の読經 ご懇意300万円以上	第4種	祥月命日20年間の読經 ご懇意30万円以上
第2種	毎月命日30年間の読經 ご懇意100万円以上	第5種	祥月命日15年間の読經 ご懇意20万円以上
第3種	祥月命日30年間の読經 ご懇意50万円以上	第6種	祥月命日10年間の読經 ご懇意10万円以上
第7種	祥月命日8年間の読經 ご懇意5万円以上	第8種	祥月命日5年間の読經 ご懇意3万円以上

令和元年度 報恩講法要勤まる

令和になつて初めての報恩講法要が、十一月二十六日から二十八日まで杉本輪番導師のもと兵庫教区内寺院より延べ九十名の僧侶のご出勤により三日間お勤まりになつた。また、二十八日の日中法要には、真宗大谷派・姫路船場別院本徳寺の中根慶滋輪番のご出仕を賜つた。

ご法話のご講師には、朝の連続テレビ小説『スカーレット』の舞台となつてゐる滋賀県信楽から九條孝義師をお迎えした。九條先生は、元教員であつたため丁寧にお話しをされ、また、仏教用語の説明には自ら筆を取つて書かれた掲示物をご用意されており参拝者からは大変わかり易かつたとの声も聞かれた。

【別院仏婦】

壯年会においては、一月十九日に本堂にてお勤まりになつた。会員による正信偈（六首引）が勤まつた。

また、法要後には、宍粟市教専寺住職の大西宝雲師をお迎えして親鸞聖人のご遺徳を偲ばせていただきご法話を賜つた。

【別院仏婦】

今年も改めて親鸞聖人を偲ぶべく、一月二十日に総会所にて法要が



仏婦お手製のお斎のちらし寿し

修行された。法要前に、お斎としてちらし寿司を作り、尊前にお供えされた。法要の次第は、正信偈（六首引）のお勤めから始まり関、山蔭両新入職員による短めの法話、そして、杉本輪番によるまとめの法話で進められた。

また、法要後には、仏婦担当者の交代があつたため挨拶も兼ねた臨時集会が開催された。集会では、会員の減少などについての話し合いが行わされた。会員さんからは、毎月顔をあわせて「元気にしてた?」などといつた何気ない言葉の掛け合いができること、仲間とお念佛させていただくことの大切さ、ありがたさについての声が聞かれた。

私たちの先人たちは、阿弥陀さまを「親さま」と呼んで親しんでこられました。浄土真宗の阿弥陀さまは、座った姿ではなく、お立ち姿ですが、これはまさに「親」としてのおっこりをそのまま表しています。

すいぶん前の話です。私の姉が当時四歳になる子どもを連れて、実家に遊びにきました。私からみればその甥っ子は、ちょうどその日、自転車が乗れるようにお寺の境内で練習をしていました。姉と私は談笑をしながらその様子を眺めていたところ、甥っ子はハンドルの操作を誤ったのか、自転車は壁に向かって走つていき、ぶつかる直前でした。私は「危ない!」と、思ったその瞬間、隣にいた姉はわが子の方へすでに走り出して、壁に激突した甥っ子はその場で泣いてしまいましたが、姉は泣いているわが子に走り寄り、「ちゃんと前を見なさいって言つたでしょ。」と、叱りつけることはしませんでした。膝をすりむいたわが子を胸に抱き寄せ、「痛かったね。大丈夫?」と

兵庫・岡山テレホン法話集

「お立ち姿のお心」

西宮市 信行寺

四夷法顕

その身を案じていました。わが子を助けようと、有無をいわず先に体が動いている。この姉の姿に、親心を見ました。

阿弥陀さまは「無明」という病を抱

えたこの私がいるからこそ座っているのではなく、立ち上がり、「南無阿弥陀仏」の声となって、今ここに至り届いて下さっています。私は一体何の為に生きているのか。私のこの命は一体どこに向かっているのか。「無明」という暗闇を破るために、阿弥陀さまは自らが光となつて私を照らし、お淨土へと導いて下さい。南無阿弥陀仏」とお念佛を称えても、悲しみや苦しみがなくなるわけではありません。しかし、その苦悩を縁として開けゆく世界があるならば、苦悩は苦悩のまま終わらせない。このお心こそ、阿弥陀さまがお立ち姿となつているおいわれでございます。



△△七八三四一八五六六番にて、兵庫教区青年僧侶の会で作られた三分程度のテレホン法話が配信されています。

お聴きください。（電話料金はご負担ください。）

※過去に配信されたご法話を掲載いたしました



仏教講座と聞くと難しそうなイメージはありますか、誰でも気軽に仏教や浄土真宗について「少しでも馴染んでいただきたい」「興味を持っていたい」との願いから本願寺神戸別院では、毎月第一土曜日の午後一時三十分から「モダン寺第一土曜仏教講座」を開催しております。これまで、年間を通したテーマ等は特に定めずに各講座にて完結しておりましたが、令和二年四月からは年間の講座テーマを設定して順序を追った形で学んでいただけるよう企画いたしました。

この度は、宗派の研究機関である浄土真宗本願寺派総合研究所の特別協力を得て講師を派遣していただきます。

テーマは、「浄土真宗ゆづくり入門」として「仏教の教え」(三回)、「浄土真宗の教え」(三回)、「お勤めの言葉」(四回)の順に進めてまいります。講座のスタイルとしては、学校での授業形式にて行います。参考までに、事前申込の必要はございませんので、当日受付にて一講座千円を納めてご参加ください。

今一度、「学生に戻つて浄土真宗を学んでみませんか。」ご参加お待ちしております。

仏教の教え

浄土真宗の教え

お勤めの言葉

第1回	4月 4日	仏教とは何か	一人間シッダールタと仏陀釈尊
第2回	5月 2日	釈尊の伝道と弟子たち	一經典誕生までのドラマ
第3回	6月 6日	親鸞聖人の苦悩	一生死出べき道を求めて
第4回	7月 4日	生涯の師・法然聖人	一天才と患者
第5回	8月 1日	まことの仏恩を報じて	
第6回	9月 5日	手紙を送る。念佛が届く。	
第7回	10月 3日	『無量寿経』のこころ「讃仏偈」「重誓偈」	
第8回	11月 7日	お釈迦さまの問わずがたり	
第9回	2月 6日	「正信偈」を味わう	
第10回	3月 6日	♪ 和讃は流行歌 ♪	

佐竹 真城 先生
隅倉 浩信 先生
田中 真 先生
八橋 大輔 先生
富島 信海 先生
西村 慶哉 先生
野村 淳爾 先生
塚本 一真 先生
堀 祐彰 先生
西河 雅人 先生

『浄土真宗ゆづくり入門』開講

常例法座は、宗祖親鸞聖人の命日と遅夜にあたる十五日と十六日（毎月、八月は休座）の午後二時より行っております。

法座の内容は、最初に、参拝者全員で、『正信偈』（行譜・六首引）のお勤めをしてからご法話（六十分程度）を聞かせていただく次第です。

淨土真宗では、「お聴聞」が大事であるとされております。今、生きている間にご法座を通して仏法や阿弥陀院を学んでみませんか。

ご参拝に際して、事前申込等の手続きはございませんので、当日は直接三階本堂までお越しください。

本願寺神戸別院常例法座のご案内

（毎月十五日・十六日 午後二時）

2020(令和2)年度 本願寺神戸別院 法要行事予定

【恒例法要】

宗祖降誕会	5月 24日(日)	午後 2時
永代経法要	6月 28日(日)	午後 2時
暁天講座	8月 1日(土)～3日(月)	午前 7時
盂蘭盆会	8月 15日(土)	午後 2時
秋季彼岸会	9月 21日(月)～23日(水)	午後 2時
報恩講法要	11月 26日(木)～28日(土)	
	日中：午前10時、遅夜：午後 2時	
除夜会	12月 31日(木)	午後 4時
元旦会	1月 1日(金)	午前 7時

阪神淡路大震災物故者総追悼法要：

「いのち」を考える研修会 1月 17日(日)

春季彼岸会 3月 19日(金)～21日(日)

※20日(土)は、納骨者総追悼法要を併修 午後 2時

【日時勤行】

お晨朝 毎日 午前7時

【毎月の法座】

第一土曜仏教講座	第1土曜日	午後1時30分
常例法座	15日・16日	午後2時
土曜講座(別院職員による)	第3土曜日	午後1時30分